全労協fax情報 | NO.1708 | 2015年10月30日（金）
全労協事務局発行
TEL 03-5403-1650

【沖縄・辺野古新基地建設阻止!】

安倍「埋め立て着工!」

沖縄県知事の「承認取り消し」を暴力で破壊する安倍首相と石井国交大臣（公明）

10月29日、政府・防衛省は石井国土交通大臣が行った「大浦湾埋め立て承認の取り消し」無効決定を受けて辺野古新基地建設の本体工事を着手した。キャンプシュワブ前で座り込みをして抗議行動を展開した沖縄の人々や支援の人々に対して機動隊が襲いかかり、強制排除して工事車両や資材の搬入を強行した。一人が逮捕されている。決して許すことはできない。

翁長沖縄県知事の激しい怒りは日本政府・安倍政権のやり口に対して沖縄差別に基づく「強権」と糾弾し今後も政府に正面から対峙し、決して辺野古新基地建設を許さないと言う覚悟となって表明された。沖縄の人々の決意に本土の労働者として答え、連帯共闘を強化していくことが求められている。

28日の首相官邸前の緊急抗議行動に続いて、29日夜には連合会館大会議室を満員にして沖縄の闘いに連帯するための「埋め立て着手は許さない！緊急集会」が開かれ、発言者・参加者は一つになって激しい怒りを爆発させた。集会では行政法の専門家である人見剛（早稲田大学法学学術院教授）から◆「法的瑕疵がある承認は取り消し」の正当性、政府の異議申し立てこそ違法であることが話され、大城悟（基地の県内移設に反対する県民会議・事務局長）から◆辺野古現地―多くの結集で違法工事をさせない―と現地報告が行われた。そして戦争法廃止・９条破壊を許さない闘いを拡大し続けている「総がかり行動実行委員会」との連携も強化して本土における闘いの強化、沖縄現地闘争への参加が呼びかけられ全力をあげることが全ての参加者によって確認された。

以下の諸行動に全力で参加を要請すると共に、全国各地において、沖縄の人々に連帯する闘いを作っていこう。

＜沖縄辺野古新基地建設阻止闘争　当面の行動＞

11月1日（日）　14：45　新宿アルタ前
辺野古の海を埋め立てるな！　11・1緊急デモ
主催：辺野古への基地建設をゆるさ穴井実行委員会
連絡先：沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

11月5日（木）　18：00～20：00　弁護士会館・クレオ
辺野古のいまを知る
～新基地建設計画の問題点と埋立阻止の可能性～
主催：東京弁護士会

11月29日（日）　13：30～　日比谷野外音楽堂
11・29　辺野古に基地はつくらせない大集会
主催：止めよう!1辺野古埋立て　国会包囲実行委員会
協力：戦争させない・９条壊すな! 総がかり行動実行委員会

11・29
十一月二十九日（日）　午後一時　日比谷野外音楽堂
辺野古に基地をつくらせない大集会　デモ

辺野古 埋め立て着工

反対派抗議 逮捕者も

政府は29日朝、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先とする同県名護市辺野古の沿岸部で、埋め立ての本体工事に着手した。埋め立て予定地に隣接する米軍キャンプ・シュワブ内で作業場の整備工事を始め、中断していたボーリング調査も再開した。一方、現地では移設反対派と警察官がもみ合いになり逮捕者が出たほか、沖縄県や名護市は強く反発している。 ▼15面＝現場騒然

翁長知事「強権極まれり」

政府が普天間飛行場の移設先とする辺野古で埋め立ての本体工事を始めたのは、日米両政府が1996年に同飛行場の返還に合意して以来、初めて。

防衛省沖縄防衛局は29日午前、「本日（午前）8時、公有水面の埋め立てに係る工事に着手した」と報道各社に発表した。

発表文書は、工事の内容として「護岸工事に必要な仮設工事の一つであるキャンプ・シュワブ敷地内作業ヤードの整備工事に着手した」と明記。同防衛局によると、始めたのは辺野古崎先端部に石材やコンクリートブロックなどを仮置きする作業場の整備工事。約6・5㌶の敷地を整地する作業を行っているという。

反対派が抗議する中、辺野古のキャンプ・シュワブに運び込まれる重機＝29日午前7時22分、沖縄県名護市、小宮路勝撮影

さらに、発表文書は「10月13日以来中断していた海上ボーリング調査に係る作業についても、同時刻（午前8時）に再開した」とも明記。海底の地質などを調べるボーリング調査は、同県の翁長雄志知事が今月13日に埋め立て承認を取り消して以降、中断していた。

安倍晋三首相は29日午前、埋め立て本体工事着手について官邸で記者団から問われたが、答えなかった。世耕弘成官房副長官は同日午前の記者会見で「政府としては普天間の危険除去、返還を一日も早く前へ進めなければいけない。辺野古の移設は着実に進めていきたい」と述べた。

一方、米軍キャンプ・シュワブのゲート前では移設に反対する市民らが早朝から集まって抗議した。工事車両の基地内への立ち入りを止めようと立ちふさがったり、ゲート前で座り込んだりする人たちを沖縄県警の機動隊員らが抱き抱えて排除するなど、激しいもみ合いとなり、沖縄県警は工事用ゲートのネットを引きちぎった器物損壊容疑で自称名護市の自営業の男（36）を現行犯逮捕した。

翁長知事は29日午前9時半ごろ、県庁で記者団に「強権極まれり。これからしっかり対峙していきたい」と述べた。名護市の稲嶺進市長は同日朝、現場に駆けつけ、「工事に必要な手続きが終わっていない。法を無視しているのは国だ」と厳しく批判した。

県は、埋め立て承認取り消しの効力を止めた国土交通相の決定を不服として、国の第三者機関「国地方係争処理委員会」に審査を申し出る準備を進めている。翁長氏は国から、埋め立て承認を取り消した処分を撤回するよう勧告もされているが、応じない方針だ。

朝日新聞2015年10月29日（夕）